

日本選手権に出場する北海学園大の選手ら(同大ハンドボール部提供)



道学生王者「力出し切る」

ハンドボール

北海学園大 日本選手権へ

男子の日本選手権(2日開幕、岡山市)に、10月の道学生選手権で優勝した北海学園大が初出場する。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、日本選手権の道予選が中止となり、特例で道内学生王者が北海道代表に選ばれた。日本リーグ勢も出場する国内最高峰の大会を前に、富所良介主将(3年)は「自分たちが持っている力を出し切りたい」と意気込んだ。

コロナ禍に見舞われた今季は春・秋の道学生リーグが中止となり、代替大会として10月に道学生選手権が開かれた。北海学園大は14チームによる激戦を制して、41年ぶりに学生全道一の座を勝ち取った。

部活動の制限も続いたが、短い練習時間でも工夫し、しっかりと守って走り勝つハンドボールに磨き

コロナで特例 初の代表

をかけた。同選手権では、昨年の道学生リーグを完全制覇した札大を接戦で下すなど勝負強さが光った。各試合で得点を重ねたエース坊野泰生(4年)は最優秀選手に選ばれた。

日本選手権の道代表の座は主に社会人クラブが争ってきた。それだけに富所主将は「まさか日本選手権に出られるとは思っていなかった。チームにとっても貴重な経験になる」と本番を楽しみにする。

2日の1回戦の相手は、全日本学生選手権(インカレ)常連の高松大(四国ブロック代表)。OBで41年前の全道制覇を経験した山上直樹コーチ(62)は「(新型コロナウイルス)の感染拡大で、練習試合もできず調整に苦労したが、なんとか調子を上げてきた。全力でぶつかって勝機を切り開きたい」と、初陣初勝利を見据えた。

(佐藤元彦)